

<町史だより>



※収集資料の紹介

9月は防災月間です。今月号は昭和34年12月20日に発行された「広報あさひ」より、伊勢湾台風に関する記事を再掲し、災害に備える意識を高める機会にしたいと思います。（※縦書を横書に変換しています）

伊勢湾台風、東海を襲う 家屋倒壊17、床上浸水36、農作物、山林の被害甚大！！

風速60mを超えた伊勢湾台風の中心通過に当たった東海地方の惨状は言語に絶するものがあったが、朝日町に於ても、家屋の倒壊17、同半壊20 同大破24、床上浸水36、床下浸水45、その他公共施設、個人の破損、農作物の被害、足の踏み立て場もなく倒れた山林の樹木など合せ、実に甚大な被害を受けたが、隣村川越村等に比すれば、浸水による被害は少く。中でも人命に関しては1名の犠牲者も無かったことは、不幸中の幸と云うべきである。家屋被害者に対して、区長を通じ4段階に分け、合計206,000円也を贈った。



救援物資運搬状況

水防団、町屋川、朝明川を警戒、救助、救援に必死の作業！！

去る9月26日午後4時頃、伊勢湾台風来襲の報に朝日町水防団（水害に対しては消防団を水防団と云う）員は、町屋川と朝明川の警戒に当る。同夜九時半頃浸水を発見し、朝明川の決壊と思ひ、直ちに朝明川に來り、ここに於て海水による浸水であることを確認し直ちに団員の非常召集を行った。次に朝日町の低地たる縄生社宅に行き、多くの流木等を見て、川越村の被害甚大なることを察知して町屋川堤防を下って川越村へ救援に向かった。真暗がりの土砂降りの中で、仮死状態者、負傷者計6名、その他ぬれぬれみとなって救助を求める被災者を次々に救助し、オート三輪、自動車にて縄生、小向の各公民館に收容し、その後合計134名に達した。この時、すでに縄生社宅の方々は縄生公民館に避難した。全く戦場、地獄の様相そのものであった。この時当町婦人会は活動を開始し、豪雨の中、これ等避難者用のフトン、衣料等の準備を始めた。

緊急町議会開催

27日夜明をまって、朝7時緊急町議会を開催、水害対策を決議し、職務分担を指示し救援を依頼した。
〔水防団・・・給水、食糧の運搬、遺体の捜査。婦人会・各部落・・・食料の確保（炊き出し）〕

川越村の要請により握りめしは亀崎、亀須、当新田、北福崎、川越村役場、天神町、給水は亀崎、亀須、南福崎、上吉、天神町へ水防団員の懸命の作業により供給された。縄生公民館に收容した約100名の被災者に対しては、ニギリめしの外ミソ汁の給与を行った。又一方遺体の捜査にも全力を注ぎ、一夜にして変りはてた百有余の遺体を1人も見逃しては申訳ないと、文字通り草の根分けて行われた。幼な児をしっかりと胸にして事切れた母子の遺体を見た時は互に眼頭をうるませた。この間5日間、給水は更に3日間延長して行われた。延人員約300名、実に献身的必死の作業であった。心より感謝の意を表するものである。